日立工會報

第２号
平成６年６月20日
発行　日立工業高校同窓会
発行者　同窓会事務局
日立市城南町２－12－１
☎ 0294（22）１０４９

会長の挨拶

会長　小林啓一

温故知新

去る一月、高萩支部総会にお招きをいただき参加した折には、なつかしい人々とお会いすることができ、地域、職場での活躍のお話、あるいは卒業生の消息のお話など活気溢れる会合でした。ときの立つのも忘れる思いで一杯でありました。同窓会というとタテ系列の先輩、後輩の関係が強いものと思われますが、地域支部は、ヨコの線で大きく結ばれる特性が生まれ生かされている姿をじかにみることができ、地域支部のすばらしさをしみじみ味わうことができました。高萩支部の今後の発展、ご活躍を祈念いたします。

会長になって、卒業式、入学式に出席、同窓会を代表してそれぞれ挨拶する機会に恵まれました。

新しく母校から巣立つ生徒達の希望に満ちた、また、未知への世界への不安、そんな中にも、過去の自分の姿が重ね合わさった思いがしました。これ等の諸君は、今同窓会の仲間入りした諸君です。職場の先輩のみなさん、これら若い後輩の指導、面倒の程をよろしくお願いします。さらに進学した諸君、自営、その他の諸君には、学校、地域でもよき相談相手になって欲しいものです。

さらに定時制の23名の諸君が四年間の学業を卒業され、その生き生きした充足感に溢れる姿は見事でした。また、文集「朋友」三十号に、それぞれの諸君の思い出を読ませていただきました。四年間の思い出を大切にして今後の活躍を期待します。

入学式、緊張と不安のせいか、元気が足りない感じ。これからの三年間、四年間、母校の中で勉学にクラブ活動に励む中で「誠実・剛健・自主・創造」の校訓のもと楽しい高校生活を期待します。

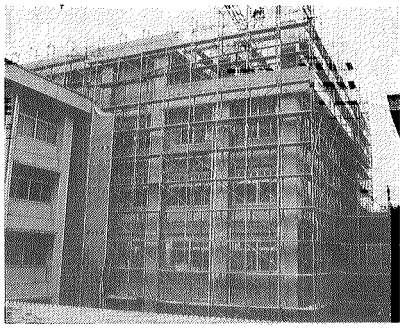
母校も新たな学科改編による「電子情報科」のスタート、新たな校舎の建設と学校環境の変化もします。しかし、校歌第一章の、

黎明の雲、紅させど　世は混濁の
闇深し　祖国の将来　思いつつ
求道の同志　集いたる　名もうる
わしき　鳩ケ丘

とあるように、現状を良く見すえ、鳩ケ丘の思い出を胸に、同窓のみなさんの母校への思いを新たにして下さることを願います。

学科改編と新実習棟建設

八十年代から情報化社会が訪れ、社会の産業構造は大きく変化してまいりました。本校でも、情報技術関連職種の求人が増え、卒業生も情報機器を操作するようになってまいりました。また、情報化社会に対応する情報関連の学科を持つ工業高校は、県北地区には設置されておらず、平成元年頃から情報技術関連学科新設の要請が高まってまいりました。

このような背景から、本校でも平成二年度から学科改編の話が持ち上がり、電気科一学級を情報技術関連の学科に改編するための委員会が組織され、具体的な検討に入りました。平成三年六月四日には、平成五年度から電気科一学級を「情報電子科」に改編するための「茨城県立日立工業高等学校学科改編年次計画（案）」が作成され、県に提出されました。翌四年五月には情報電子科設置に伴う新実習棟建設の話し合いが、県の営繕課・財務課と持たれ、その年の秋に新実習棟の設計が出来上がりました。

平成五年四月には、情報電子科が新設され40名の第一回入学生を迎えることができました。これにより、平成五年度入学生からは、全日制は機械科二学級、電気科一